

クラボウ

“フットプリント” バイオ研究支援の良きパートナーとして

柳瀬 浩

倉敷紡績株式会社(クラボウ) 環境メカトロニクス事業部
バイオメディカル部 バイオ営業課長

Yanase, Hiroshi

Manager of Sale & Marketing Section
Bio-Medical Department
Advanced Technology Division
KURABO INDUSTRIES LTD.
E-mail : Hiroshi_Yanase@ad.kurabo.co.jp

はじめに

クラボウは創業1888年、2018年3月に130周年を迎える倉敷市発祥の企業で、社名の通り紡績業から始まった。現在は、衣料、自動車、住宅、半導体、バイオメディカルなど様々なフィールドで製品やサービスを提供している。

バイオメディカル事業は、1982年にバイオ研究支援フィルターの発売からスタートした。まだ株化細胞が主流だった1988年には、日本でプライマリーヒト凍結細胞を取り扱い、セミナー開催など各地の啓蒙活動で普及に努めた。その後も、1990年に「核酸自動分離装置」、1996年に「皮膚3次元モデル」、1999年に「DNAマイクロアレイ受託解析サービス」など、クラボウは最新技術を製品やサービスに展開するビジネスの先駆者であったと自負している。また、研究トレンドに合わせたタイムリーなサービス供給、トレーサビリティやバックデータの提供、安定的な品質コントロールにも注力してきた。これらは、バイオインダストリーにおける企業の存在価値であり、再生医療を安全に普及する不可欠な要素であると考えている。

核酸自動分離装置

クラボウの「核酸自動分離装置シリーズ」は、膜方式と遠心方式の2つの方式があり、膜方式の装置は、採血管(全血2mL)をセットするだけでDNAを1時間程度で分離する全自動装置「QuickGene-Auto240L」

と、最大0.2mLの48サンプルに対応したコンパクト装置「QuickGene-Mini480」に続き、最大2mLの8サンプルに対応したコンパクト装置「QuickGene-Mini8L」(図1)を2018年1月に発売した。遠心方式の本装置は、1990年の発売当時、遺伝子解析の三種の神器の一つとまで賞賛された装置であり、改良を重ねた現在は最大10mLの血液を処理できる。また、全血に加えて、血中フリーDNA、唾液や口腔粘膜も処理できる装置もあり、シリーズ全体で幅広い試験サンプルに対応が可能となっている。

皮膚3次元モデル

「皮膚3次元モデル」は、米国MatTek社の日本国内総発売元として、クラボウが技術サポートと製品輸入

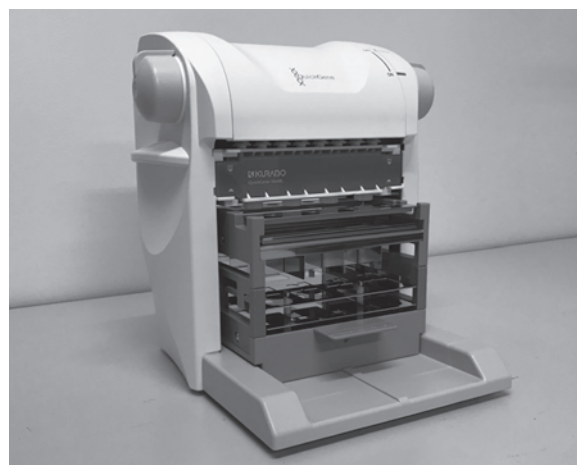


図1 QuickGene-Mini8L